

全国保健所長会 だより

たった一度のセミナーが誰かの人生のインパクトになるために

普段、私たちがイベントに参加するのは、その空間でしか得られない特別な体験を通じて、心の変化が生じることを期待するからです。その結果、自己肯定感が生まれたり、視野が広がったり、時には新しい生き方を考えるきっかけになることもありま

す。そして、私たち「公衆衛生医師の確保と育成に関する調査及び実践事業」班がセミナーを開催するのは、私たちが魅力の発信源となり、若手医師・医学生らの心を動かす言動力となるためです。

このセミナーには、3つのインパクトがあります。1つ目は、全国の事業班員が総出で運営するスケール感、2つ目は、「答えのない課題」に向き合う価値、そして3つ目は、たった2日間

足からの歩みを示し、困難な課題を克服するには、信頼できる仲間とのチームづくりが重要だと強調しました。グループワーク・全体討論では、これらの「答えのない課題」に対し、個々の意見を拡散させることに重点を置きました。答えを出すのではなく、ただ相手の意見に集中する。この多様な他者を認め、己を知る体験こそセミナーのハイライトであり、このVUCA時代に、予測できない課題対応が求められる私たちにとって、価値ある学びとなるのです。(詳細は全国保健所長会HPやYouTubeにて公開中)。

インパクト3 仲間とのつながり力がもたらす未来

セミナーで生まれた全国の仲間とのネットワークは、同じ空間・時間を



写真1 PHSS2023参加者およびスタッフとの集合写真

公衆衛生若手医師・医学生 サマーセミナー(PHSS) 2023報告

PHSS2023 運営委員長／広島市南区役所厚生部医務監・保健センター長 平本 恵子

で未来の仲間が全国に広がるネットワークです。

インパクト1 スタッフ総出の運営

ICTを活用した進化系運営

2日間のセミナー運営を円滑に進めるためには、度重なる話し合いが必要ですが、班員は全国に点在し、予定もなかなか合いません。そこで、ZoomやGoogleドライブ、LINE等を駆使したバーチャル協議によって、距離を感じない作業効率を実現しました。これこそ公衆衛生医師に求められる対応力でもあり、セミナー運営はその真価が問われる場ともいえます。

集客率を上げる広報戦略

多くの人の目に留まるよう、Web上の広報媒体を積極的に増やしました。まず、飛行機をアイキャッチにした躍動的なチラシを関係各所に情報

共有してこそ得られた、真の力です。この力は、今後困難に直面しても多様なメンバーでチームをつくり、助け合いながら解決できる「公衆衛生医師力」の土台となります。そして、これからの人生で「あっ、あの時の」の一言でつながるたびに、自分の世界が広がり、やがて未来の目標に近づくための「推進力」に発展することでしょう。

VUCA時代にこそ求められるセミナー

セミナー終了後のアンケートでは満足度は10点中平均9.1点と高く、多くの参加者の心に響いたと同時に、未来のセミナーに対するさまざまなアイデアが記されており、セミナーのさらなる発展に多くの期待が寄せられていることも分かりました。私たち公衆衛生医師は、この果て



写真2 グループワークの様子

図 セミナープログラム

8月19日(土)		8月20日(日)	
一般企画 13:30	オープニング 日本公衆衛生協会 松谷有希雄 理事長 全国保健所長会 内田勝彦 会長	特別企画 8:00~ (希望者) パワー！モーニング 参加者と現役公衆衛生医師との意見交換会 モデレーター 田邊 裕氏 (名古屋市西区保健福祉センター) 回答者 松澤 知氏(新潟県福祉保健部) 植田英也氏(大阪府健康局健康推進部) 茅野正行氏(宮崎県都城保健所)	一般企画 9:30 オリエンテーション 9:35 アイスブレイク&交流タイム 9:45 テマートーク・参加者自己紹介 リーダーズセッション② 当事者から見た精神保健行政：公衆衛生医師に知ってほしいこと 講師：渡邊洋次郎氏(リカバリハウスいちご) ▶グループワーク・発表・討論
13:40	オリエンテーション	10:45	休憩
13:45	アイスブレイク&交流タイム テマートーク・参加者自己紹介	11:00	リーダーズセッション④ コロナ禍で見えた在宅医療の課題ー将来の地域医療構想を考える 講師：守上佳樹氏(KISA 2隊 よしき往診クリニック) ▶グループワーク・発表・討論
14:00	リーダーズセッション① リーダーシップスタイル：臨床と行政の違い 講師：武智浩之氏(群馬県健康福祉部) ▶グループワーク・発表・討論	12:00	休憩
15:00	休憩	12:15	全体討論 モデレーター 横山勝教氏(香川県東讃保健所) パネリスト+参加者 フリーディスカッション
15:15	アイスブレイク&交流タイム テマートーク・参加者自己紹介	12:45	クロージング 横山勝教氏(香川県東讃保健所) アンケート・記念撮影
15:30	リーダーズセッション② 公衆衛生と生命倫理：我々は治療すべきか？ 講師：藤井可氏(熊本県総務局行政管理部労務厚生課) ▶グループワーク・発表・討論	特別企画 19:00	(希望者) 情報交換会
16:30	休憩		
16:45	全体討論 モデレーター 永井仁美氏(大阪府茨木保健所) パネリスト+参加者 フリーディスカッション		
17:15	総括・連絡 横山勝教氏(香川県東讃保健所)		

提供し、YouTubeチャンネルに紹介動画をアップロードしました。さらに全国保健所長会ホームページやSNS、ポータルサイト「民間医局コネク」など複数のWebコンテンツを活用し、オンライン情報へのアクセスビリティを高めました。その結果、参加申込数は定員30人を大幅に上回る62人となり、次世代向けの新たな広報戦略の有効性を実感しました(その後の選考で最終参加者数は46人)。

心を動かす環境・企画

全国から続々と参加者らが集まる会場の様子は圧巻です(写真1)。今年度は36人も事業班員を参集し、運営・撮影・グループワーク担当など細かな役割を設定しました。また、5~6人ごとのグループに2人ずつ班員を配置し、いつでも気軽に相談できる環境を整えました。さらに、若手班員4人が質問に答える特別企画「パワーモーニング」や、4年ぶりの情

しない社会の課題を、多様な仲間とともに解決する、クリエイティブで柔軟性に富む職種です。この唯一無二の魅力で、たった2日間で体感できるサマーセミナーは、参加者とスタッフの手でつくる私たちの未来であり、かけがえのないレガシーとして、これからも引き継いでいくのです。

今年4つの講義とグループワーク、2つの全体討論で構成されました(写真2)。

インパクト2 「答えのない課題」に向き合う価値

群馬県健康福祉部の武智浩之氏は公衆衛生医師のリーダーシップスタイルについて述べ、行政では多様な変化に順応する必要があるため、さまざまな形のリーダーシップが求められる、と説明しました。

熊本市総務局の藤井可氏は公衆衛生と生命倫理の関係性について述べ、公衆衛生上の倫理課題として予防接種の政策と個人の考え方の衝突を例に挙げ、「弱くある自由」を求める人への対応を問い掛けました。

また、生活支援施設リカバリハウスいちごの渡邊洋次郎氏は、自身のアルコール依存体験を踏まえ、依存症を抱えつつ自分らしく生きていくには、依存症の人が共存し、回復できる社会が必要だと説きました。

最後に、よしき往診クリニックの守上佳樹氏は、新型コロナウイルス感染症患者の訪問診療チーム(KISA2隊)の発

*VUCA 変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、両義性(Ambiguity)という4つの単語の頭文字を並べたもの。予測困難で既存の価値観が通用しない現代社会を表す言葉。

【謝辞】運営に協力いただいた事業班スタッフの皆さま、日本公衆衛生協会松谷有希雄理事長、事務局の皆さま、そしてこのセミナーに参加者に周知してくださったすべての関係者の方々に、厚く御礼申し上げます。